

## LCV「諏訪圏情報BOX」の収録（第5回）

○ 放送日 平成30年7月3日（火）、10日（火）

○ テーマ

「星降る中部高地の縄文世界」の日本遺産認定について

○ 出演者

諏訪地域振興局企画振興課 主査 神林 哲也

○ 聞き手とのやりとり（概要）

Q1 八ヶ岳山麓市町村の縄文文化への取組が、日本遺産に認定されたそうですが、日本遺産について教えてください。

- ・ 日本遺産は、地域が持っている歴史的な魅力や文化、伝統について語るストーリーを文化庁が認定し、ブランド化などを進めることで地域の活性化を図っていく事業です。

平成30年度においては、諏訪地域を始め、長野県、山梨県の14市町村が舞台となる「星降る中部高地の縄文世界」が認定されました。県内での認定は、木曾地域に次いで2番目になります。

Q2 日本遺産に認定されると、どのようなメリットがあるのでしょうか。

- ・ 認定されたストーリーについては、その魅力を発信し地域の活性化に繋がる取り組みに関して文化庁による積極的な支援が3年間行われます。

今後は案内看板の設置や案内人の育成等が予定されており、諏訪地域を含む八ヶ岳エリアでは、観光客の増加などの地域活性化が見込まれます。

Q3 認定された「星降る中部高地の縄文世界」とはどのようなストーリーなのですか。

- ・ 簡単に概要をお話ししますと、八ヶ岳を中心とする中部高地には、数千年に渡り縄文人が黒曜石を掘り続けたとされる国内唯一の鉱山があります。彼らは、黒曜石のかけらを、大地に降り積もった星のかけらと信じ、鉱山は「星降る里」として言い伝えられてきました。

鉱山から掘り出された輝く黒曜石は鉱山の麓に広がるムラからムラへと全国に持ち運ばれ、黒曜石が繋ぐ東西文化の交流ネットワークが結ばれました。

- ・ 麓のムラの遺跡からは芸術性に富んだ縄文土器や土偶が発見されており、自然の恵みに支えられた豊かな暮らしが営まれていたことを窺い知ることができます。
- ・ 八ヶ岳山麓に残る黒曜石の鉱山やムラの遺跡を訪ねることで、今につな

が

る縄文人の世界に思いを馳せ、自然に囲まれた日本文化の源流にタイムスリップしてみよう、というものになります。

**Q 4 私達が気軽に縄文の文化に触れることができる施設があれば教えてください。**

・ 下諏訪町の埋蔵文化財センターでは、黒曜石を採掘した星ヶ塔遺跡の原寸大のジオラマが展示されている他、黒曜石の流通や歴史、遺跡を紹介す

る映像を見ることができます。諏訪の黒曜石がどこまで運ばれていたのかわかる日本地図もあり、「星降る中部高地の縄文世界」の事を知るにはぴったりの施設です。

- ・ 国宝に指定されている「縄文のビーナス」「仮面の女神」のある茅野市尖石縄文考古館も見逃せません。  
土偶が出土した時の様子や、土偶のCTスキャン画像も展示されている他、高い芸術性を備えた数多くの土器も展示されており、縄文人の心豊かな暮らしに触れることができます。
- ・ どちらも入館料が必要になる他、休館日もございますのでご注意ください。

**Q 6 最後に。**

- ・ 日本遺産に指定されたことをきっかけに、皆さんが縄文文化に触れる機会が更に多くなると思います。

博物館や考古館以外にも、諏訪地域には数多くの縄文遺跡があり、現代にしながら、誰でも数千年を遡り、縄文人に出会う旅に出かけることができます。

この夏は皆さんも、諏訪地域で星のかけらを探してみませんか。